

# 兵 医 広 報

2024  
WINTER  
vol. 264

建学の精神  
社会の福祉への奉仕  
人間への深い愛  
人間への幅の広い科学的理解

西宮キャンパス

兵庫医科大学(医学部)  
兵庫医科大学病院  
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号  
☎0798-45-6111(代)  
https://www.hyo-med.ac.jp/(大学)  
https://www.hosp.hyo-med.ac.jp/(病院)

神戸キャンパス

兵庫医科大学(薬学部・看護学部・リハビリテーション学部)  
〒650-8530 兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番地6  
☎078-304-3000(代)  
https://www.hyo-med.ac.jp/

篠山キャンパス

兵庫医科大学  
ささやま医療センター  
〒669-2321 兵庫県丹波篠山市黒岡5番地  
☎079-552-1181(代)  
https://www.sasayama.hyo-med.ac.jp/  
兵庫医科大学  
ささやま老人保健施設  
兵庫医科大学  
ささやま居宅サービスセンター  
〒669-2321 兵庫県丹波篠山市黒岡36番地  
☎079-552-6840(代)  
https://www.sasayama.hyo-med.ac.jp/

梅田キャンパス

兵庫医科大学  
梅田健康医学クリニック  
〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-13-1 大阪梅田ツインタワーズ・サウス13F  
☎0120-682-701(代)  
https://umeda-kenshin-clinic.jp/

< 広報誌の送付先変更や配送停止に関するお問合せ >

【兵庫医科大学 医学部 卒業生(緑樹会会員)の方】  
兵庫医科大学 医学部 同窓会緑樹会  
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号  
兵庫医科大学 西宮キャンパス 教育研究棟 3階  
☎0798-45-6448 (平日13:00~17:00)  
✉ryokuju@hyo-med.ac.jp

【兵庫医科大学 医学部 在学生保護者の方】  
兵庫医科大学 大学事務部 西宮教学課  
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号  
兵庫医科大学 西宮キャンパス 教育研究棟 2階  
☎0798-45-6159 (平日8:30~16:45)  
✉kyo-gaku@hyo-med.ac.jp

【兵庫医科大学 薬学部・看護学部・  
リハビリテーション学部 卒業生(海鳥会会員)の方】  
兵庫医科大学 キャリアデザインセンター  
〒650-8530 兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番地6  
兵庫医科大学 神戸キャンパス M棟 1階  
☎078-304-3100 (平日8:30~17:00)  
✉careerdesign@hyo-med.ac.jp

【兵庫医科大学 薬学部・看護学部・  
リハビリテーション学部 在学生保護者の方】  
兵庫医科大学 大学事務部 学生支援課  
〒650-8530 兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番地6  
兵庫医科大学 神戸キャンパス P棟 1階  
☎078-304-3007 (平日8:30~17:00)  
✉gakuseishien@ml.hyo-med.ac.jp

【その他の方】  
学校法人 兵庫医科大学 総務部 広報課  
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号  
☎0798-45-6655  
✉kouhou@hyo-med.ac.jp

学校法人 兵庫医科大学 広報誌  
兵医広報 vol.264 (2024 WINTER)  
発行日/2024年1月4日  
発行元/学校法人兵庫医科大学 総務部 広報課



神戸マラソンを支える

# 兵庫医科大学の 学生たち

KOBE MARATHON  
VOLUNTEER





神戸マラソンを支える 

# 兵庫医科大学の 学生たち

KOBE MARATHON  
VOLUNTEER

2023.11.16

## ポアイ4大学クリーン作戦

神戸マラソンのゴールの地となるポートアイランド。  
ポアイ4大学が協力し、各大学付近のマラソンコースの清掃活動を行いました。

去る11月19日に開催された神戸マラソン2023。大会当日の救護のサポートだけでなく、マラソン会場となるポートアイランドの清掃活動など、兵庫医科大学の学生たちも毎年、大会ボランティアとして参加しています。ポアイ4大学クリーン作戦と神戸マラソン当日のボランティアの様子をお届けします。



2万人のランナーに  
気持ちよく  
走ってほしいです。



ボランティアに参加する機会が  
なかなかないので  
貴重な経験になりました。



いろんなゴミが  
落ちていて驚きました。



今後も色々な形で  
社会貢献をしてみたいです。







## Runner's Voice

ランナーの声

初めて、フルマラソンに参加しました。学生さんをはじめとしたボランティアの人たちがたくさん声を掛けてくれ、すごく励みになりました。私たちは無事に完走できましたが、何かあっても救護チームが助けてくれるという安心感もありました。イベントを支えてくれる皆さんがいたからこそ、楽しく走り切ることができました！ありがとう！



神戸を代表する大規模なイベントに携わることができ、大きな達成感と感動がありました。

専門知識を生かした社会貢献ができました！

# 2023.11.19 神戸 マラソン2023

神戸マラソン当日は、ゴール前の難所である固定AED隊や搬送係、応援隊、医療補助や集計、記録係などを務める他、ランナー今年は62名の兵庫医大生が参加し、地域と関わる喜びに接しながらの

バイパスから神戸大橋までの区間で、救護所に分かれてスタンバイ。への声掛けや炊き出しの提供なども行いました。大きなイベントに携わる達成感と社会貢献活動となりました。

ランナーの皆さんから「ありがとう」と声を掛けてもらい、こちらも元気をもらえました。



医療従事者による救護の様子を間近で見られて良い経験になりました。



誰かのために行動する喜びに、学習意欲もアップ！

## Interview

インタビュー

募集方法の関係上、これまでは参加者のほとんどが1年生でしたが、今年度は神戸キャンパス全体に伝わるように募集したところ、上級生の参加が多く見られました。当初より看護学部やリハビリテーション学部からの参加がやや多いですが、薬学部を含めた3学部からたくさんの学生が参加してくれています。第3回からは沿道での応援に加え、定点でのAED係や車椅子での搬送、救護所補助などいろいろな役割を担当してくれています。救護のサポートに加え、学生たちの笑顔での応援にランナーからも「元気をもらった！」という声が多く聞かれました。大学の持っている「人」や「知識」などの財産を社会で活用・還元する、あるいは地域社会の一員として活動するためには、まずは大学そのものを知ってもらう必要があります。イベントへの参加は大学を知ってもらう手段となり得るうえ、地域・地区の一員としての存在にもつながるため、有効な手段の一つと考えています。



リハビリテーション学部  
理学療法学科  
賀屋 光晴 准教授







## EMPOWER THE PEOPLE 次の50年に向かって

学校法人兵庫医科大学 理事長 **太城 力良**

明けましておめでとうございます。2024年の年頭にあたり、謹んで新年の寿ぎをお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス、ウクライナ戦争やイスラエル・ガザの紛争、円安と物価高騰、異常気象、カルト、AI、医療DXなど、想定外で将来予測が困難な事象が多く、現在はVUCAの時代と言われています。VUCAは、Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)の頭文字をとったもので、教育やビジネスにとって未来予測が難しく、既存のビジネスモデルでは対応できない時代となっているのです。さらに、少子化による大学全入時代を迎え、選ばれる大学にする経営努力が必要とされます。また、医療従事者の働き方改革法案が今年4月に施行され、密度が濃く質の高い労働をすることで労働時間を短縮しないと病院経営は苦しくなります。このような困難に対峙し、輝かしい医系総合大学として発展し続けるには、教職員、学生、卒業生、保護者などの関係者がone teamに結集しなければなりません。そして、継続的な学習と成長の文化を醸成し、柔軟な思考、情報収集と分析、信頼に基づく協力・連携、新たなイノベーションの創出、リスク管理が求められています。

さて、本法人は一昨年3月に開学50周年を迎えました。新年も、次の50年に向けて、EMPOWER THE PEOPLEをスローガンに大きく飛躍する年とたく思っています。

周年記念事業の1番目として、一昨年4月に兵庫医科大学は医療大学を吸収合併しました。4学部の学生に対する多職種連携教育(IPE)に留まらず、共に同一患者を診る臨床実習(IPW)も始まりました。教育・研究・診療全てを理解する総合的な医療人・研究者を育成する体制を作り、診療レベルをさらに上げるために4学部、3キャンパスの教職員が同じ場で研

修する試みが成されています。生涯学習の一環として、リハビリテーション学では3キャンパス合同のシンポジウムを以前から開催していましたが、看護学でも看護学部と2キャンパスの病院看護部が連携できる具体的な研究や研修の説明会を開催しました。また、看護・リハビリテーション両学部は後期博士課程の新設を計画しています。

2番目は、阪神百貨店の上にある大阪梅田ツインタワーズ・サウス13階に開設した梅田健康医学クリニックです。一昨年10月に開院し、1年が経過して人間ドック・検診部門は経営面でも順調なスタートを切りました。外来部門は、患者サービスに徹した体制をとりたいのですが、大学病院の専門科の殻に閉じこもる医師もおり、改善の余地は多く残されています。最先端のMRI、CTなどの利用件数も増やしていかなければなりません。西宮本院で放射線科医がon lineで精度の高い読影をしていることをさらにアピールしなければなりません。

3番目は、新病院棟の建設です。供用開始は2026年春を目指し、昨年5月から工事が始まり、免震装置の設置のための地下スペースを建造しています。西宮グランドデザイン計画の総予算は530億円でしたが、最近の物価高、働き方改革、大阪万博に伴う建築計画増により、大幅な経費増が予想されています。法人としても節約に努め、収益を上げる努力をしていますが、保護者、同窓生、教職員にもご協力をお願い申し上げます。

本学の輝く未来を創る決意を、本学に関わるすべての人々が共有し、その力を結集して実現に向け邁進したいと考えています。本年も、皆様方が健康で元氣澁刺と過ごされることを祈念すると共に、学校法人兵庫医科大学のさらなる発展に向けてのご協力をお願い申し上げます。



## 関係者が帰属意識を持ち 誇りに思える大学を目指す

学校法人兵庫医科大学 副理事長 **野口 光一**

皆様、明けましておめでとうございます。兵庫医科大学の全教職員の皆様、学生諸君や保護者の皆様さらに卒業生の皆様におかれましては、安らかなお正月を迎えられていることと存じます。新型コロナウイルス禍も比較的落ち着いた状況で、久しぶりの年末年始であったと思いますが、2024年の皆様のご健勝を心より祈念しております。

さて私儀、昨年4月より法人の副理事長を拝命いたしました。業務分担として鈴木学長をサポートする教学事業管理以外に、経営企画・危機管理・コンプライアンスそして情報を担当しております。いずれも法人の経営基盤を支える極めて重要な業務である上に、一から勉強しなければならない分野もあり、太城理事長をはじめとする多くの皆様のご指導をいただきながら、一層身を引き締めて業務にあたっていく所存です。

兵庫医科大学は2022年3月に開学50周年式典を挙行し、4月より

4学部を有する医系総合大学として新たなスタートを切りました。そして2023年は鈴木敬一郎学長のもと4学部のさらなる教育の充実に向けて新しいスタートを切りました。新病院棟建設工事は進捗し来年後半の竣工が近づいてきて、多くの具体的な計画を立てる必要があります。ウクライナ危機を始めとする諸物価の高騰は本計画に大きな影響を与えていますが、新しい医療の実践の舞台となる新病院棟を素晴らしいものに仕上げたいと考えています。

今後とも、大学としての価値を高め全ての兵庫医科大学関係者が帰属意識をしっかりと持ち、誇りに思えるようなそんな大学を目指していきます。皆様方のさらなるご理解、ご協力をお願いし、2024年が皆様と兵庫医科大学にとって良い年となることを祈念してご挨拶とさせていただきます。



## 未来の医療を担うプロフェッショナル人材を養成

兵庫医科大学 学長 **鈴木 敬一郎**

明けましておめでとうございます。昨年4月に学長に就任いたしました鈴木敬一郎でございます。本学は一昨年に医・薬・看・リハの4学部、西宮・神戸・篠山・梅田の4キャンパスが連携して「EMPOWER THE PEOPLE ～心に響く医を、私たちがいるかぎり～」をスローガンに新たなスタートを切りました。2026年には最先端の設備を誇る新病院が開院予定です。昨年、第4次中期事業計画を策定し、未来を切り拓く教育・研究・診療の創造に挑戦して広く社会に貢献する医系総合大学を目指しています。現在の日本は急速な少子高齢化社会を迎え、すべての分野でパラダイムシフトが起こっております。医療においても単に病気を治すのが目標ではなく、病気が完全に治らなくても周囲の人々や社会に支えられて希望と生きがい、そして笑顔のある生活を患者さんに送っていただくのが目標です。また予防から急性期・

慢性期そして看取りまでが医療の対象になります。これは医師だけでも看護師だけでも不可能で、多職種が連携・協力しあって患者さんに向きあうことが必要です。また、これができる医療者こそ人口減少社会で生き残れると思います。そのため4学部の学生が臨床現場で共に学ぶ多職種連携総合実習の拡大と充実、全学部学生の兵庫医大病院での臨床実習など、今後一層多職種連携教育(IPE)と多職種協働(IPW)を充実させます。ITを用いた新しい教育導入と一層の学修支援の充実を行い、高い国家試験合格率は堅持します。そして大学にとって高い理想とアカデミズムの堅持・発展は最も重要です。知の拠点として教育・研究・診療においてオリジナリティを重視して未来の医療を担う自律的なプロフェッショナル人材を養成し、日本一の医系総合大学をめざします。皆様のお支援と御協力をお願い申し上げます。



## CONTENTS

- 01 特集 神戸マラソンを支える兵庫医科大学の学生たち
- 05 2024年 年頭のごあいさつ
- 09 OUR CREW  
～兵医メンバーのEMPOWER EPISODE～  
1人1人の学生と真摯に向き合い  
困りごとを解決する糸口を共に探る  
神戸キャンパス 学生相談室 学生相談員  
原田 久仁美／西崎隆志
- 11 HYO-i LAB 研究紹介  
腎不全による人工透析患者へのリハビリテーション  
診療報酬改定によって注目を集める運動療法指導について  
兵庫医科大学 リハビリテーション学部 講師  
松沢 良太
- 13 NEWS & TOPICS
  - ・2023年度 白衣授与式を挙行
  - ・病院職員が医療クオリティ マネジャーに認定されました
  - ・emol社とAMED採択事業の強迫症治療を目的とした認知行動療法アプリの臨床研究を開始
  - ・兵庫医科大学合同研究発表会を開催
  - ・各キャンパスでクリスマスイルミネーションを点灯
  - ・2つのメディカルラリーで本学医師・看護師と西宮市消防局の合同チームが優勝
  - ・第15回神戸キャンパス大学祭「海鳥祭」を開催
  - ・西宮キャンパスにて第52回兵庫医科大学大学祭「醫聖祭」を開催
  - ・ポーアイ4大学総合防災フェスタにて看護学部がブース出展
  - ・兵庫医科大学病院で自衛消防訓練を実施
  - ・第22回地域医療懇談会を開催
  - ・「阪神5大学サステナブルかん人材養成プラン」が始動
  - ・「兵庫医科大学－関西学院大学 医工連携プロジェクト」VR講座を開催
  - ・兵庫医科大学公開講座「ゲノム編集食品って何？」を開催
  - ・CLTI患者を対象とした、自家末梢血単核細胞と移植用細胞足場ICS -001の併用による医師主導治験を開始
  - ・和歌山信愛中学校・高等学校にて放射線教育を実施
  - ・～新たな治療の開発に貢献～医師主導治験(VIOLA試験)の結果から悪性中皮腫(胸膜以外)に対してニボルマブが初の承認
  - ・「ポーアイ4大学クリーン作戦」を実施
  - ・令和5年度兵庫医科大学篤志解剖体慰霊祭を挙行
  - ・丹波篠山市長より新型コロナ対応に関する感謝状を授与
  - ・第10回先端医学セミナーを開催
  - ・2023年度自衛消防訓練を神戸キャンパスで実施
  - ・第51回実験動物慰霊祭を挙行
- 20 「兵庫医科大学」×「READYFOR」クラウドファンディング
- 法人からのお知らせ
- 21 キャンパス通信 神戸キャンパス
- 22 キャンパス通信 篠山キャンパス／新病院棟進捗報告
- 23 兵庫医科大学 開学50周年記念事業募金状況報告／  
学校法人 兵庫医科大学基金 兵医・萌えの会 状況報告
- 24 評議員の異動／主な行事予定(1～4月)
- 25 メディア実績(10～11月)



## 心理的安全性の高い職場をめざして

兵庫医科大学病院 病院長 阪上 雅史

皆様、明けましておめでとうございます。新型コロナも2023年5月に5類になり、皆様とお会いする機会も増えお元気な姿をみて安心しております。

2019年4月に病院長を拝命し、1年目は初診患者獲得を合言葉に各科医師・看護師・薬剤師・技師・事務の方々に助けられ史上最高の収支差を達成できました。病院長2～4年目は多職種連携one teamでコロナ禍を乗り越え、病院への影響を最小限に留めることができました。5年目の方針を考えていた2022年12月頃、心理的安全性の高い(権威勾配の低い)職場という言葉が目にとまりました。心理的安全性とは組織の中で自分の考えや気持ちを誰に対しても安心して発言できる状態で、1999年にEdmondson教授(Harvard Univ.)が提唱されました。

2023年3月に栗山監督率いる侍ジャパンがWBCで優勝の快挙を成し遂げ、日本中を熱狂させました。一番の勝因は「栗山英樹監督がWBC優勝に向かって選手の自由にものを言える環境を整えたので、メジャーリーグやプロ野球の有名選手がのびのびと活躍できた。心理的安全性の高い職場を作った」からだそうです。それ以来、心理的安全性という言葉は有名になり、経済紙や新聞にたびたび登場しています。

「根性で頑張れ!」で育った昭和世代の筆者がどれだけ心理的安全性の高い職場を構築できるか自信がありませんが、この言葉を繰り返して、安全で質の高い病院をめざして5年目の病院運営を行っているところです。皆様のご理解とご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、2024年の皆様のご多幸とご健勝、そしてご活躍を祈っております。



## 広い圏域で選ばれる病院へ

兵庫医科大学ささやま医療センター 病院長／ささやま老人保健施設長 藤岡 宏幸

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は、兵庫医科大学篠山キャンパスの運営に多大なご支援を賜り本当にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

兵庫医科大学篠山キャンパスは、人口減少・高齢化の進む地域において、大学が病院、老人保健施設等を運営し、その現場で学生や研修医の教育を行うという全国に先駆けた取り組みを実践してきました。地域ならびに兵庫医科大学においてたいへん重要な役割を担っています。この重要な役割を継続していくには収支バランスも大きな因子になります。

丹波篠山市の人口は減少傾向にあり、4万人足らずになっています。丹波篠山市内のみならず、丹波篠山市、丹波市、三田市を一つの圏域にとらえた人口約21万人の圏域で選ばれる病院・施設になることが重要と考えます。

病院は内科・総合診療科、整形外科およびリハビリテーション科を中心に兵庫医科大学病院と緊密に連携して運営し、地域の拠点病院として信頼されています。老人保健施設および居宅サービスセンターも大学が提供する質の高いサービスにより、堅調に運営できています。

これまで通り質の高い医療介護を実践するとともに、スピード感を持ってさまざまな業務改善に取り組みます。現状維持ではなく、組織が進化して収支バランスを改善するようにしたいと思います。

「EMPOWER THE PEOPLE～心に響く医を、私たちがいるかぎり～」をスローガンに篠山キャンパスの教職員全員が兵庫医科大学の一員であるという自覚と誇りをもって、生き生きと地域社会に貢献できるように運営する所存です。

本年も引き続き、ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。





# OUR CREW

兵庫医科大学のUI(ユニバーシティアイデンティティ)で策定したスローガン

「EMPOWER THE PEOPLE～心に響く医を、私たちがいるかぎり～」を実践している兵医ファミリーを紹介。  
今回は神戸キャンパスの学生が健やかに学べるよう支援する、学生相談室の原田さんと西崎さんのエピソードを紹介します。

兵庫医科大学  
神戸キャンパス 学生相談室

はらだ く に み  
**原田 久仁美**

にし ざ き たか し  
**西崎 隆志**

公認心理師と臨床心理士の資格を持ち、神戸キャンパスにおける学生の相談事を引き受けている2人。温かく優しい笑顔と真摯な言葉で、学生たちをエンパワーし続けている。



EMPOWER THE PEOPLE BY

## 可能性を信じる

## 1人1人の学生と真摯に向き合い 困りごとを解決する糸口を共に探る

### 神戸キャンパスの学生の心の拠り所に

西崎 神戸キャンパスの皆さんが何でも相談できる場所として開設されたのが、神戸キャンパス学生相談室です。利用は基本的には予約制で、臨床心理士と公認心理師の資格を持った私たち2人の相談員が悩みや困りごとについて話を伺ってます。心や体の不調や人間関係、学業についてなど、相談内容は多岐にわたります。



原田 様々な思いを抱えながらも、相談室を訪ねるという選択をしてくださったことに対して、「よく来てくれました」という思いで迎えるところから相談は始まります。自分の気持ちを言葉にすることが苦手な学生さんもおられるので、そういう時は箱庭療法の箱庭を作ることを勧めることもあります。その人に合った方法で、大学生活が過ごしやすい環境や方法を一緒に考えていければと思っています。

### 学生さんの困りごとを共に考える

原田 学生相談室は、障がいのある学生さんに対しても、学内の支援方針に沿って支援を行う相談窓口の一つとなっています。学生さんがどのようなことで困っているのかを丁寧にお聞きし、学生さんとの合意の上で、学部の先生にお伝えしています。

西崎 普段は困りごとに合わせて、学生さんとの合意の上で、先生方と学生さんの困りごとを共有しているのですが、学部の先生方が学生さんに相談室を勧めてくださったり、時には一緒に訪ねてくださることもあります。新入生や在学生のオリエンテーションでも相談室について紹介させていただいていることもあり、相談に来やすい環境を整えていきたい

と思っています。学生の皆さんがいつでも気軽に立ち寄れる場所であるといいですね。

原田 学生相談室を身近に感じてもらい、気軽に学生さんが交流できる場の一つになるようにコロナ禍の前までは年4回(今年は2回)、学内でイベントを開催してきました。新入生のウエルカムパーティー、サシェやキャンドルづくり、デコチョコ、手話など、学生さんに好評でした。時には先生方も学生さんと一緒に参加していただき、楽しい交流の場となっています。(詳しくはp21の「キャンパス通信 神戸キャンパス編」もご覧ください)

### 「あなたを大切に思っている」が 伝わるコミュニケーション

西崎 学生さんと関わるうえでは、信頼関係を築くことを意識しています。相手を尊重し、誠実に接することを心掛けています。そのことが、「あなたを大切にしている」「あなたを信じている」というメッセージにつながるように感じています。

原田 学生さんを裏切ることがないように、時にはできないことをはっきりと伝えることもあります。真摯に接することで、お互いの信頼が生まれて来るように思います。

西崎 辛い気持ちを話してくれた学生さんが笑顔を見せてくれたり、就職や卒業が決まったという報告をもらった時にはとても嬉しいです。

原田 学生さんのほっとしているような姿を見ると、こちらも心がほぐれます。相談室の役割は、学生さんがどうしたいのかが自分で分かって、主体的に決めていけるように寄り添うことです。こうして学生さんの人生に関わらせていただき、成長していける姿を見せてもらえることがモチベーションとなって、逆に私たちがエンパワーさせていただいているようにも思います。一期一会を大切に、1人1人の学生さんとお会いしていきたいですね。





# 診療報酬改定によって注目を集める 人工透析患者への腎臓リハビリテーション

腎臓リハビリテーションとは、腎不全による人工透析患者に対するリハビリテーションのこと。

運動療法、食事療法(塩分、水分管理等)、薬物療法、教育、精神・心理サポート等を含めた包括的な

リハビリテーションとなっている。これまで医療支援体制が未整備で現場での関心は薄かったが、

2022年の診療報酬改定により関心が一気に高まってきている。兵庫医科大学リハビリテーション学部では、

腎臓リハビリテーションを現場に普及することを目指し、研究開発を進めている。



兵庫医科大学 リハビリテーション学部

講師 松沢 良太

研究テーマ 腎不全による人工透析患者への  
リハビリテーション

## 進行する腎不全患者の高齢化

日本では、血液透析療法を受ける末期腎不全患者の人口は年々増加し続けており、透析患者の高齢化が進行している。

透析患者は低栄養、慢性炎症、異化亢進/同化抵抗性およびアミノ酸の喪失といったフレイルの危険因子を多く有するが、高齢化がフレイルのリスクをさらに上昇させる。そのため、近年は腎臓リハビリテーション(以下、腎リハ)の確立が急がれている。腎リハとは、運動療法、食事療法(塩分、水分管理等)、薬物療法、教育、精神・心理サポート等を含めた包括的なリハビリテーションのことを指す。

松沢講師はこの腎リハを専門とする数少ない研究者の一人だ。「腎リハはこれまでの研究で、運動療法のエビデンスは構築されつつあります。ですが、リハビリテーション料算定を含めた医療支援体制が未整備であったこともあり、現場での関心は薄く、実施している施設も限られています」。

## 注目を集める運動療法指導

ところが、令和4(2022)年度診療報酬改定が行われたことで状況は一変する。「透析時運動指導等加算」が新たに加わったのだ。これにより、透析中の運動療法(指導)への関心が一気に高まり、これから運動療法指導を進めていこうという流れに現場が変わってきている。ただし、課題はまだ山積みだ。コストの算定が始まっている施設ははまだ10分の1ほどにしか満たないという。これは、理学療法士の不足や運動療法指導への知識不足によるものである。「今のフェーズは、在籍している職員の中でできることをやりつつ、腎リハの必要性や重要性についての啓発が必要です」。

また、腎リハは主に高齢者など、運動に対するモチベーションが低い人が治療対象となるため、フレイルの管理が大切になってくる。しかし、このようなフレイル管理は未だルーチンケアには含まれていない。そのため、これから理学療法士が積極的に参入していく必要が出てきている。

## 腎リハ研究のこれから

松沢講師は現在、「フレイル・サルコペニアの管理の簡便化」、「透析中に栄養が逃げていくことに対して、どのくらい介入できるか」、「透析患者が無理なく、効果的に身体機能を向上できる運動様式の開発」の3つの研究を進めている。フレイルへの運動療法指導の必要性が臨床レベルで高まっていることを踏まえ、これまでの研究成果を現場でいかに活用してもらうか、また、活用しやすい方法を確立していくための新たな研究が必要だという。「研究はとにかく論文を読むことから始まります。多くの論文を読み込んだ上で臨床現場に出ることで、新たな研究テーマが生まれ、同じような主題を追う研究者との対話が理解を深めるきっかけとなります」。

今後、透析医療の進歩や社会情勢の変化に伴い理学療法士の役割はさらに変化していくものと予想される。

「定期的にフィジカルチェックを行い、フィードバックを行っていただけても生命予後が良くなるという結果が出ており、評価結果に応じて管理を促していくことが求められています。研究を進めることで、現場の管理やモチベーションアップと患者様の健康に寄与できればと考えています」。

KEY WORD

腎臓  
リハビリテーション<sup>※</sup>  
RENAL REHABILITATION

腎疾患や透析医療に基づく身体的・精神的影響を軽減させ、症状を調整し、生命予後を改善し、心理社会的ならびに職業的な状況を改善することを目的として、運動療法、食事療法と水分管理、薬物療法、教育、精神・心理的サポートなどを行う、長期にわたる包括的なプログラム。

※腎臓リハビリテーションガイドライン(編集:日本腎臓リハビリテーション学会)





## 2023年度 白衣授与式を挙行

2023年10月11日、兵庫医科大学 平成記念会館にて「2023年度 兵庫医科大学 白衣授与式」を挙行了しました。白衣授与式は4年次の学生107名に対して行われ、廣田医学部長から開会の辞の後、鈴木学長、阪上病院長から挨拶が述べられました。その後学生たちは12名の教員から白衣を手渡され、代表の松原優斗さんとともに「ヒポクラテスの誓詞」を教職員・学生一同で唱和しました。最後に池内臨床教育統括センター長から閉会の辞が述べられました。学生たちは10月23日からのオリエンテーション臨床実習を経て、11月から臨床実習に臨んでいます。



## 兵庫医科大学合同研究発表会を開催

2023年10月16日、兵庫医科大学合同研究発表会を開催しました。学内における研究交流の促進を目的とし、ニーズ、研究シーズおよび研究材料の共有を通じた学部内・学部間の研究者のマッチングをめざして企画されました。医学部、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部が参加し、フラッシュトーク、ポスター発表が行われました。多くの方が出席され、活発な議論が交わされました。



## 各キャンパスでクリスマスイルミネーションを点灯

2023年11月22日から、西宮キャンパスの1号館、8号館、10号館1階などの病院スペースでクリスマスツリーの展示を開始しました。神戸キャンパスでは、12月6日に恒例のクリスマスイルミネーション点灯式を行い、正門付近のヒマラヤ杉に飾られたクリスマスツリーがライトアップされました。篠山キャンパスでも、11月29日からささやま医療センターの入口にクリスマスツリーを展示しました。各キャンパスで学生や患者さん、地域の方々にクリスマスの癒しを提供いたしました。



## 病院職員が医療クオリティ マネジャーに認定されました

院内における質改善活動の中心的な役割を担う人材として公益財団法人 日本医療機能評価機構が養成する「医療クオリティ マネジャー」。病院事務部 医療マネジメント課 坂田英敏 課長補佐が養成セミナーを受講し2023年9月に認定を受けました。本院としては初となります。認定期間は2023年10月1日から2027年3月31日までで、病院の「質」に関して常に問題意識を持ち、質の向上に向けた改善活動に関するPDCAサイクルを担うことが期待されています。



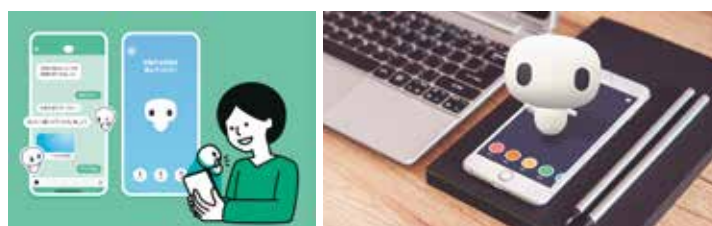
## 2つのメディカルラリーで本学医師・看護師と西宮市消防局の合同チームが優勝

2023年12月2日に関西大学高槻ミュージックキャンパスで第20回千里メディカルラリーが開催され、兵庫医科大学病院 救急科に所属する医師2名(野間光貴、高橋 知佳子)、看護部(救急・EICU・CCU)所属の看護師2名(大谷 理沙、宮地 百利恵)と西宮市消防局の救命士3名による合同チームが参加し、全20チームの中から優勝いたしました。また10月14日に開催された島根メディカルラリーでも同チームは優勝しており、多職種連携により限られた時間での確な診断と治療が求められる技能コンテストにおいて、日頃の成果を発揮することができました。



## emol社とAMED採択事業の強迫症治療を目的とした認知行動療法アプリの臨床研究を開始

精神疾患向け治療用アプリ開発を行うemol株式会社と精神科神経科学講座で共同研究を行っている、強迫症患者の治療を目的とした認知行動療法(CBT)アプリの臨床研究が2023年8月より開始しました。このアプリはCBTへのアクセシビリティ向上を目指して開発されており、これまで健常者を対象に性能評価を実施していましたが、強迫症患者を対象とした臨床研究が開始されました。







## 第15回神戸キャンパス大学祭「海梟祭」を開催

2023年10月28日、29日の2日間、神戸キャンパスにおいて、第15回大学祭「海梟祭」を開催しました。テーマは、「Re:Start～新たなる瞬間を～」このテーマには、以前の海梟祭を引継ぎ、新たな伝統をつくりたいという意味がこめられています。メインステージでは、クラブ・サークルによるパフォーマンスやヒーローショーを実施し、大変盛り上がりました。また、模擬店にも多くの来場者が訪れていました。3年ぶりの通常開催となり、一般の方も含め2日間で約1,300名が来場され、盛況のうちに終了しました。



## ポーアイ4大学総合防災フェスタにて看護学部がブース出展

2023年10月29日、ポーアイ4大学が共催した「ポーアイ4大学総合防災フェスタ」が神戸学院大学ポートアイランド第2キャンパス及びおおい公園周辺で開催されました。みなとじまキャンパス地区の防災意識向上を目指して企画され、今年度が初開催となりました。防災に関する体験や展示ブースが設置され、神戸市水上消防署や学生消防団によるパフォーマンスも披露されました。本学からは看護学部が「心肺蘇生・AED使用体験」ブースを出展し、およそ300名が参加。救急車が到着するまでの間に行う「命をつなぐリレー」を体験していただきました。



## 兵庫医科大学病院で自衛消防訓練を実施

2023年10月24日、兵庫医科大学病院で自衛消防訓練を実施しました。鳴尾消防署にご協力いただき、深夜帯に1号館10階東病棟から出火した想定で通報、初期消火、避難誘導について確認をしました。また1号館10階南側デイルームに取り残された仮想患者をはしご車で救出する訓練も実施しました。最後は鳴尾消防署員の方と阪上病院長から講評がありました。



## 西宮キャンパスにて第52回兵庫医科大学大学祭「醫聖祭」を開催

2023年11月11日に、第52回兵庫医科大学大学祭「醫聖祭」を開催しました。今回は「Breakthrough」をスローガンとし、4年ぶりに一般の方にもご参加いただいて開催されました。戦場カメラマン 渡部陽一氏の講演会や新家名誉理事長が描いた絵画の展示、豪華景品のビンゴ大会、室内楽団や軽音楽部の演奏会、ダンス部のパフォーマンス等が実施され、学生たちにとって、コロナ禍が明けた今こそ自分のやりたいこと、今しかできないことに挑戦し、自分の殻を突き破る「Breakthrough」のきっかけとなる大学祭となりました。



## 第22回地域医療懇談会を開催

2023年10月21日、ホテルヒューイット甲子園で「第22回 地域医療懇談会」を4年ぶりに対面開催しました。新病院棟建築の進捗状況や医療支援センターの取り組み、各科の新たな診療の取り組みが紹介されました。また、今年着任した診療部長による各科の特色についての講演のほか、懇親会も開催され参加者間での直接情報交換も行われました。医師会から26名、各医療機関から医療関係者44名、兵庫医科大学病院関係者34名、合計104名が参加し、盛会のうちに閉会しました。

